

令和 8 年度宮城県災害医療コーディネート研修会を開催しました (2026/7/26)

テーマ：災害時の保健医療福祉コーディネート（調整）、本部運営
場 所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2026 年 7 月 26 日（日）、東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）で令和 8 年度宮城県災害医療コーディネート研修会（宮城県主催）を実施しました。本研修会は当研究所で通年開催されている「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」の「災害保健医療コーディネート実習」も兼ねています。プログラム履修生 8 名（看護師、保健所保健師ほか）を含む、宮城県内の医療機関・行政機関関係者など計 35 名が受講し、計 20 名の講師・スタッフが運営にあたりました。研修コーディネーターである佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）は会場責任者を務めました。

被災地で活動する災害保健医療チームは全国各地から集まり、派遣元組織もさまざまです。このように異なる背景を持つ多数のチームを有機的に運用するためには、言語の統一や情報収集・共有、意思統一などの本部コーディネート（調整）機能が重要な鍵となります。この研修では、東日本大震災時に石巻医療圏の医療調整本部を支援し続けた災害医療 ACT 研究所（宮城県石巻市）に属する医療従事者が講師となり、当時の実例を題材に本部でのチームビルディング、情報収集・共有のあり方、本部組織運営について実践的な研修を行いました。一日の総まとめとして、研修の最後に 2 時間半にわたる模擬本部運営研修を行い、受講者は本番さながらのシナリオに基づく混乱状態の本部運営を体験しました。

より多くの方が実践に即した知識・技術を身につけることで、宮城県の災害保健医療福祉体制はすそ野が広がり、より強靱かつ厚みを増すことになります。社会の災害対応力向上にはそれを実践できる人材育成、知識の普及啓発が不可欠です。当研究所はこのような実践的活動を支援して参ります。



開会の挨拶をする宮城県庁
医療政策課佐々木様



地図上の断層と病院の立地
から人的資源配分を検討する



ラピッドアセスメント結果から
優先的に支援する避難所を決定



エリア・ライン制による間断
無い支援者調整を検討



疑似本部会議運営。様々な関
係者から質問、要求を受ける
本部長と本部員



本部運営についてフィード
バックを受ける受講生

文責：佐々木宏之（災害医療国際協力学分野）